

第 1 回 同 窓 会 報

〒564 吹田市山手町 3 丁目 3 - 35
☎06-388-1121 内線5840
同窓会編集委員会 発行

「化学工学科同窓会の再発展に期待して」

化学工学科同窓会会長

磯 部 靖 三



平成6年度をもって化工と応化の同窓会が分離され、両学科同窓会が独立した道を歩むことになりました。

前会長の中川浩夫氏から引きつぎ、会長を仰せ付けられました。よろしくお願い申し上げます。

化学工学科1期生として卒業した私にとっては、化工と応化は4回生の卒業研究をどの研究室で行なうかの違いでしかなく、化工と応化の同窓会の分離、独立の話しを聞いた時には、一末の寂しさを覚えたものであります。

しかし、化学工学科の6期以降は、化工と応化が分離され、既に30年近くも歩んできたこと、さらに化工・応化同窓会会員の6,000名をこえたことによる運営の困難さが増したことを考えると、両学科の同窓会が分離独立することは、相方にとって身軽な運営が可能となり、再発展が期待できると思うに至っています。

同窓会の運営については、各方面でいろんな試みがなされています。研究室毎の恩師と卒業生、在学生の交流を主にした同窓会、その開催も、毎年、隔年、オリンピック開催年に行なう等のいろんな方法で同窓会が運営されています。

しかし、同窓会の理想は、化学工学科全体の同窓会・パーティーを毎年行ない、巾広く恩師と同窓生の交流の場にするのではないかと考えています。同窓会には、毎年出席する人、数年ぶりに顔を出す人、研究室単位での交流がなくなっている人等々、いろんな人が集えるようにしたいものです。

1978年に化工・応化同窓会が設立された当時は、毎年同窓会を開催していましたが、卒業生が数千人に達する頃から運営の面でも困難が生じ、在学の先生方にも多大のご苦勞をおかけすることから、最近同窓会・パーティーを行なっていないのが実情であります。

化学工学科同窓会が独立したこの機会に、同窓会・パーティーを是非とも復活させたいと考えております。このためには、在学の諸先生には実質的なご負担をおかけすることになると思われまので、運営の簡素化の工夫も必要です。

同窓会の開催と共に、同窓会名簿は車の両輪のように、恩師、同窓生相互の連帯を強める大切な財産であります。名簿の作成には、1978年の同窓会設立以前から小川先生を初め名簿作りにこだわって頂いた諸先生のおかげで立派な名簿を貴重な財産として引きつぐことができました。今後とも大切にこの名簿を育てていきたいと思っています。

化工・応化両同窓会が独立したことにより運営も容易になり、活発な活動を行なうと共に、両同窓会が相互に協力しあえれば好ましいことと思われま。

今後とも、化学工学科同窓会の発展のため、諸先生方、同窓会諸氏のご指導をお願い申し上げます。

「同窓会発足に際して」

植 村 正



長らく続いて来た化学工学科・応用化学科合同、同窓会も平成4年で、すでに会員数が6,000名を越す大所帯となって、事務処理が困難となり、今度、別々の同窓会として発足することになった。同窓会設立の頃から在職して来た筆者にとって、この再発足は新しい門出として、うれしいような、またさびしいような複雑な気分である。同窓会の世話をして下さっている小田先生より、なにか会創立頃の回想でも書くようにとの御依頼をうけ、私自身が見、聞きしたこと、小川先生よりお聞きしたことなど当時のことを書いてみようと思う。

わが工学部は昭和33年1月10日に文部省より、認可を受け、同日より、機械、電気、化工、金属の4学科の学生募集を始めた。当時の教授陣は当初、立てておられた計画通りにはならず、教授には香坂先生と小川先生、専任講師が川手先生、助手が今井先生と井藤先生、技術員が津田、鶴野のおふたりで、榎場先生と大岩先生は後日就任された。

第1回生は志願者の集まりが悪く、3次試験まで行われたと聞いている。3次試験を行うに際して、当時大金であった100万円を出して、主要新聞の全国版に広告を掲載されたが、集まったのは、わずか108名で、先年なくなった久井理事長（当時は専務理事）から、「まるで除夜の鐘ですね」と云われたと聞いている。このようにして、1回生90名（志願者数110名）に当時2部の学生用に使われていた天六学舎を用いて講義と実験（地下実験場で換気が悪く、困られたと聞いている）が行われた。

実験場はその翌年（34年）に平屋の実験場と機械工作場の5棟が千里山キャンパス内に完成し、学生実験は千里山で行われることになった。これらの建物の外壁は白レンガ様で美しくモダンであったが、天井はトタン板で、夏は暖房が、冬は冷房がよくきいていると云った具合で、居住性は極めて悪く、悩まされたものである。また、学生は午前中は天六学舎で講義を受け、午後は千里山学舎で実験を行うと云った状態で、チャーターしたバスで移動したが、交通渋滞にまき込まれて、到着が大巾に遅れ、実験に支障を来たしたことが、しばしばあった。その後、昭和40年に化学工学科実験場が、44年に本館研究棟が出来上がっている。学生の募集は、その後も大変で、化学系も苦戦を強いられた。昭和34年から44年に到るまで、2次募集がなされており、昭和45年から現在の形になった。

一方授業料であるが、調べてみると昭和33年度は入学検定料3,000円、入学金20,000円、授業料30,000円、維持拡充費5,000円、校費1,000円、実験実習費5,000円、年額初年度61,000円で、それから13年後の、昭和46年では、検定料5,000円、入学金50,000円、授業料90,000円、維持拡充費19,000円、実験実習費20,000円、年額初年度179,000円となっており、これを平成6年度、検定料35,000円、入学金260,000円、授業料890,000円、教育充実費170,000円、実験実習費100,000円、年額初年度1,420,000円と比較すると、その差の大きいにはおどろかざるを得ない。

また、化学工学及び応用化学専攻で初めて学位（博士）を取得した人は、荻野千秋氏で昭和44年4月に工学博士（課程）を得ており、つづいて大内辰郎氏（現在応化教授）、浦上忠氏（教養化学教授）が45年に、47年には小幡齊氏（生物工学教授）、石井康敬氏（応化教授）と以後続々と博士が誕生し、現在迄に39名に達している。

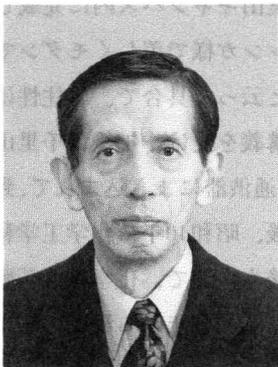
その間の千里山キャンパスの学舎の充実は目をみはるものがあった。私が着任した当時の建物は、法文学舎と大学院の旧館、経済学部学舎（改築されている。正門入口そばの新館の敷地にあった）、商学部学舎があっただけで、まだ周辺の景色には千里山の、のどかな面影が残っていた。

以上、化学工学科36年の発展の歴史をふり返ってみた。同窓会の新しい門出に際しての温故知新のよすがにでもなれば幸いである。同窓会のさらなる発展をお祈りしたい。

「定年を迎えて」

徳 永 淳 次

ついこの間、関西大学に赴任したと思っていましたが、いつの間にか30年が過ぎて、本年3月退職することになりました。最初の頃に特別研究を担当した卒業生はもう50才をこえていて、大学が懐しいといって顔を見せて、チョコレート会社を経営している一人はチョコレートを製造する機械を自分で設計したとか、エンジニアリング会社に就職して現在純水製造プラントの建設工事の責任者として働いているというような話を聞くと、教員として何とも言えない喜びを感じます。



毎年10人程度の卒研究生と一緒に研究に取り組みながら30年を過しましたが、この間社会の景気の影響によって就職に頭を痛めた年もあったと思いますが、概して順調に推移してきたように思います。

しかし、一昨年頃から徐々に円高、規制緩和などによる製造業のリストラによって、化学工業分野における学生の就職も急に大変厳しい状況になりつゝ、あるように感じました。この3月に卒業する学生の就職状況もかなり厳しいものでした。このような時機に大学をやめていくことは何とも淋しい思いがします。

次に、この30年間に大学院の前期課程に進学する学生数が次第に増加して、遂に数年前からは定員をオーバーする状態になりました。大学院生の増加によって研究活動が一段と活発となり、研究成果の増加と充実の原動力となっているようで頼もしい限りです。しかし、大学院の前期課程に比べて、後期課程への進学状況は極めて少なく、何らかの対策が必要ではないかと思えます。数年前から社会人入学制度が実施されていて、化学工学専攻へは第1回の卒業生の磯部靖三氏が在学しておられます。

自己の能力の開発のためにも、大学の後輩の啓発のためにも一人でも多くの卒業生の方々がこの制度を利用して学位を取得してもらいたいものです。

化学工学科は日本の高度経済成長期においては物質、エネルギー生産産業の基盤技術者の養成を指向して社会的要請に答えてきたと思います。しかし、近年工学に対する社会的要請の変化に伴って、諸大学の工学部の組織改革が進められており、化学工学系学科も各大学においてその対応が進められています。名前が変わっても、カリキュラムが変わっても、ケミカルエンジニアが果す役割が重要なことは変わりありません。より高度な学問、より精密な技術がプロセスに適応される時代になりつゝ、あるようです。

健康に留意して、専門の技術を生かして活躍されることをお祈りします。

「世界の中の関大、化学工学科の同窓会」

高松 武一郎

7年の短い在職期間の退職を目の前にして、関西大学化学工学科の同窓会報第1号に執筆の依頼を受けたことは真に光栄なことである。

今は情報化の時代とよく云われ、情報化といえば、誰しもコンピュータ、電子機器を使うことと短絡して考えてしまうようである。勿論、道具としてコンピュータや電子機器が盛んに使われることは否定できないが、コンピュータや電子機器を使うことそのものが情達化の目標であると考えてはならない。では、何故情報化なのであろうか。



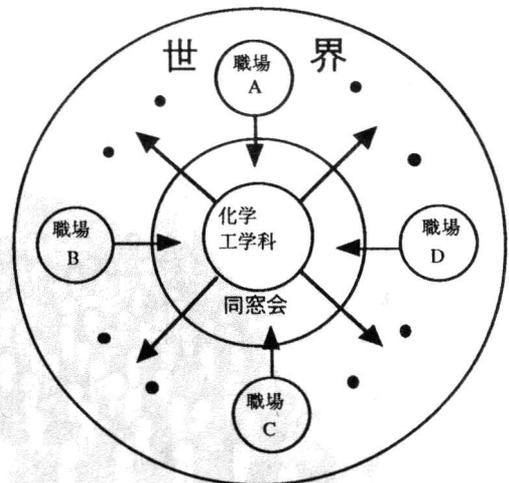
一人の人間が大洋の中の離れ小島で外界と隔絶状態で自給自足で生きて行く場合は、情報化はまるで意味がないであろう。僅か数百年前には、ある山間に住むの人々は、隣村の出来事を1年も経ってから人づてに聞く、といった状態もあつたに違いない。現代は、世界の人々の活動の恩恵を受けなければ、一人の人間が生きて行くのが不可能に近い。食糧、衣類、住宅、スポーツ、芸術、交通など、何をとっても我が国内は勿論のこと、世界の人々の働きがあるからこそ、一人一人が現代生活を送ることが可能なのである。

我々個人が世界の人々のお陰で生きて行けるのであれば、我々個人が世界の人々のことを頭に入れながら生活して行くのは当然のことである。世界の人々のことを頭に入れるということは、世界の人々についての情報をえるということである。情報化の原点はここにあると、私は考えている。一人の個人が世界の人々の個人々々の情報を総て頭に入れるということは理想ではあるが、神様でない限り不可能である。従って、地域、国などの集約された形での情報として受けとめているのが現実である。

一人の人間が出来るだけ多くの人々の情報を得ながら活動、生活してゆくに当たっては、家族、縁者の繋がり、職場での繋がり、友人の繋がりなど数多くの接点を持っている。大学の同窓会というのは、学んだ専門領域が同じで、しかも多様な職場の、老若混在の集合であり、多くの人々の情報を得ながら活動するという意味からは、現実的にも真に有効な情報獲得の場であると私は考えている。しかも、年々同窓会の人口は増加してゆき、情報源は自然に拡大して行く（定常状態になるまでは）。卒業生の方々は産、官、学の各界に、また世界の人々に直接接して活動している方も少なくない。

グローバルプロダクション、世界人類のための生産における日本の役割は大きい。そのためには出来るだけ多くの世界の人々の情報を把握してゆかねばならない。同窓会は、同窓の人々の親睦を含めて、グローバルプロダクションに向けての重要な接点の役割を果たせるし、また果たすよう弛まざる努力を続けてゆかねばならない。

退職を目前にして、関西大学化学工学科同窓会（何かよい名前が欲しい）の活力あふれた発展を念じつつ。



教室だより

「創立35周年記念式典行われる」

関西大学工学部化学工学科は、昨年創立35周年を迎えました。これを記念致しまして、創立35周年記念事業を計画し、記念式典・祝賀会の開催を皆様に提案致しましたところ、各方面から多数の方々のご出席を賜り誠にありがとうございました。実行委員会を代表致しまして厚く御礼申し上げます。

記念式典・祝賀会は多くの方々のご支援を得て、4月16日（土）に関西大学100周年記念会館（大ホール）に於いて、ご来賓、名誉教授、卒業生、在学生の皆様方を合わせて380余名の参加者を得て開催することができました。

当日ご出席頂けなかった皆様方や記念誌のご購入を希望された71名の方へは、参加者名簿を添えて記念誌を発送させて頂き、滞り無く記念事業が終了致しました。

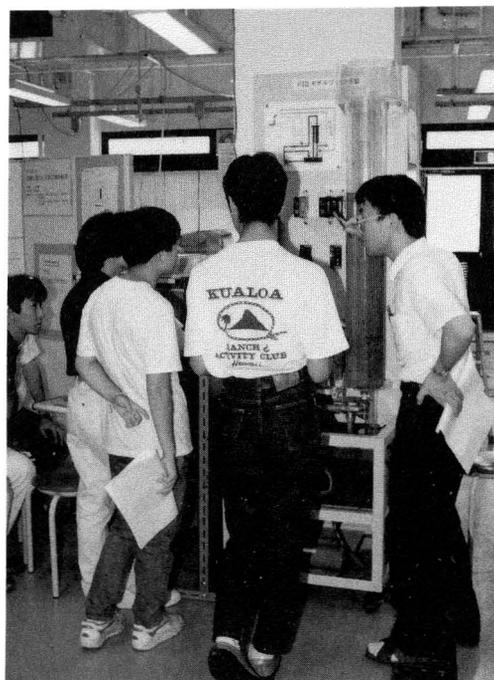
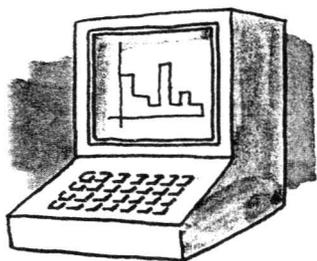
式典当日は多数の方々にご出席を頂きましたにもかかわらず、実行委員長の不行き届きのため何かとご迷惑をおかけ致しましたことを、心よりお詫び申し上げますとともに、皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

今後とも関西大学工学部化学工学科の発展のためにご指導、ご鞭撻を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

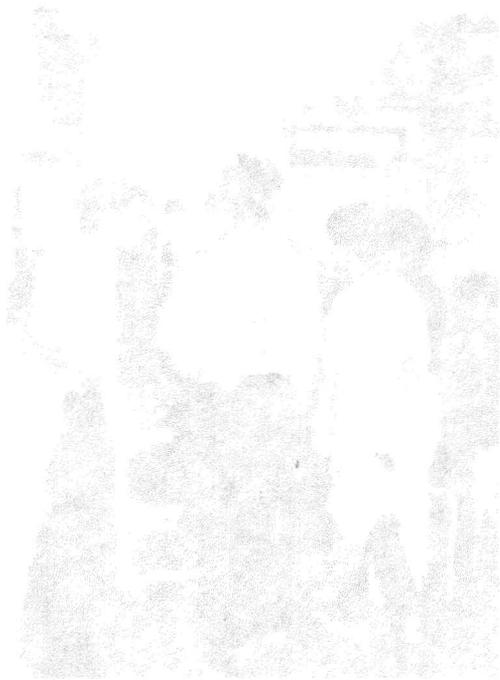


「夢！化学21-関西大学開催される」

夢！化学21キャンペーンの一環として行なわれた『夢！化学21-関西大学』は、関西大学工学部の化学工学科、応用化学科および教養化学教室の協力を得て、近畿各府県の高校生を対象に行われた。4月に最初の企画委員会が開催され、高校生の化学知識レベルでも興味が持てて、できるだけ面白い内容になるように注意してテーマが選ばれた。また、パネルやポスターをフルに活用してより分かりやすい説明、実験になるように注意が払われた。さらに、化学工学に関する最新ビデオやコンピューターグラフィックスを有効に使用して視覚的にも理解しやすくなるように計画された。当日の実験では高校生から多くの質問や意見が教員や大学院生に出され、高校生にとって有意義で貴重な体験となったと考えられる。アンケート結果から、さらに中学生や高校生を対象に化学の本当の面白さやその重要性を啓蒙する必要があることが感じられた。



阪神大震災で被災された皆様に
心よりお見舞い申し上げます。



◆ 年会費納入のお願い ◆

当同窓会は総会、懇親会、講演会の開催や機関紙の発行等を通して、卒業生と出身学科とのコミュニケーションに努めております。

会を運営するにあたり、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

時節柄、ご出資ご多端のことと存じますが、同封の振込用紙にて、ご送金賜りますようお願い申し上げます。